

関西医科大学外科専門研修プログラム

1 新しい外科専門研修プログラムについて

2018年度から始まった関西医科大学外科専門研修プログラムは、外科学講座、心臓血管外科学講座、呼吸器外科学講座の3講座が連携して作成されていました。2024年度より、外科学講座が、上部消化管外科学講座・下部消化管外科学講座・肝臓外科学講座・胆膵外科学講座・小児外科学講座・乳腺外科学講座の6講座に細分化されましたが、全8講座がひきつづき連携して、研修の指導を行っていきます。将来の進路を決めている方は、従来のようにいずれかの講座に所属(入局)して、他講座の診療科や連携施設をローテートして頂くことが可能です。将来の進路がまだ決まっていない方は、いずれの講座にも所属せずに、8講座の診療科や連携施設をローテートすることも可能です。

2 関西医科大学外科専門研修プログラムの魅力

◎新しい病院、そして新しい手術室で外科研修を受けることができます。

研修の中心となる附属3病院はいずれも新しく、綺麗な環境と最新の設備が整った病院です。
枚方キャンパスには最新の教育・研究設備が整っています。



◎充実した設備のシミュレーションセンターで腕を磨けます。

患者さんにより良い手術を提供するためには、常に手術手技を反復して日々積み重ねていく必要があります。そのためにはシミュレーション実習は有効かつ重要な修練方法です。関西医科大学シミュレーションセンター(枚方キャンパス3階)は、広さ約345㎡、100種類以上の機器を保有しております。最新のロボット手術・内視鏡手術にも対応し、ロボット手術シミュレーターのRobotix Mentor、内視鏡手術シミュレーターのLap Mentor2台、ドライボックス9台を備えています。技術向上により、外科医としてのキャリアアップにもつながり、また、出産、育児などで休職した場合でも、シミュレーション教育により外科医として復帰しやすい環境の提供を目指しています。



◎優れた指導者層

外科の全領域に国内で名の通った一流の外科医がいます。
外科の基礎修練はもちろんですが、最先端の知識と技術を学ぶことが可能です。責任をもって指導します。



3 外科専門研修について

- 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6か月以上の研修を行います。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度(コアコンピテンシー)と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 外科専門医研修の後、Subspecialty専門医の取得と大学院入学に迷う人が多いです。関西医科大学の外科では、専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。博士号と専門医の取得を同時に進めることが可能です。
- 外科Subspecialtyの全領域で研修修了後から症例登録が可能となります。関西医科大学ではSubspecialtyの専門医取得を念頭に置いた指導を行います。



関西医科大学外科専門研修プログラム

◎研修例のシェーマ



4 外科専門医取得に必要とされる経験数

- 350例以上の手術手技を経験（NCDに登録されていることが必須）
- 上記のうち術者として120例以上の経験（NCDに登録されていることが必須）
- 臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに登録されていることが必須）は、研修プログラム統括責任者が承認すれば、手術症例数に加算できます。

各領域の手術手技または経験の最低症例数	
①消化管および腹部内臓	50例
②乳腺	10例
③呼吸器	10例
④心臓・大血管	10例
⑤末梢血管（頭蓋内血管を除く）	10例
⑥頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）	10例
⑦小児外科	10例
⑧外傷の修練	10点
①～⑦の分野における内視鏡手術（腹腔鏡・胸腔鏡を含む）	10例

- 関西医科大学外科専門研修プログラムでは、基幹施設である附属病院及び連携施設23施設で研修を行っていただきます。
- 関西医科大学外科専門研修プログラムに申請する年間手術数は約24,000件で、150名を超える指導医を有しています。
- 豊富な症例数をもとに、外科医としての基礎となる総合的な外科医教育システムを提供することができます。

5 外科専門研修プログラム修了後のキャリアプラン

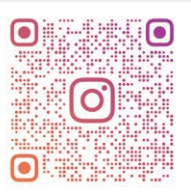
1	関西医科大学外科専門研修プログラムは、原則として卒後2年間の臨床研修を終えた医師を対象に、基幹施設及び連携施設をローテーションしながら外科専門医取得と各専門外科の専門医取得を行う事を目標にしています。
2	外科専門研修プログラムを行っている間に、各診療科でSubspecialty領域専門医取得のための修練を開始します。希望するSubspecialtyが決まっている先生は、より専門的な領域を重点的に行うこともでき、より早期からSubspecialty領域の研修を積むことが可能です。
3	プログラム修了後も、個人の希望に応じてフレキシブルに対応し、大学院に進んで研究をする道や、臨床に重点をおいたより早い段階での専門医や技術認定医の取得など、より良い研修ができるように配慮しています。近年急速に普及しているロボット支援下手術においても、ロボット手術認定指導医のもとで専門医研修を行うことができます。さらに海外への留学制度も充実しており（大学より補助制度あり）、様々なライフプランに合わせた研修と一緒に相談しながら進んでいくことが可能です。
4	大学院への進学希望者には、一般・社会人（臨床勤務を継続）枠があります。原則4年間の大学院博士課程に入学して（入学試験あり）、医学博士号の取得が可能です。科学的思考力を備えたAcademic surgeonとしての道のりの第一歩となり、豊富な経験を有する各講座の指導教官とともに基礎・臨床研究を行います。また欧州での大学院進学の道も用意しています（学費・旅費・滞在費など補助制度あり）。

6 連携施設一覧（2025年12月現在）

- 関西医科大学総合医療センター ●大阪国際がんセンター ●宝塚病院 ●交野病院 ●関西医科大学香里病院 ●済生会泉尾病院
- 若草第一病院 ●松下記念病院 ●明和病院 ●八尾市立病院 ●萱島生野病院 ●吉田病院 ●筑波大学 ●地域医療機能推進機構大阪病院
- 大手前病院 ●大阪赤十字病院 ●附属総合南東北病院 ●多根総合病院 ●国立国際医療研究センター病院 ●りんくう医療センター
- JA静岡厚生連静岡厚生病院 ●和泉市立総合医療センター ●市立ひらかた病院

大学院入学希望者へのメッセージ

大学院での研究は、決して医学博士号取得のためだけの研究ではなく、臨床における諸問題を基礎実験にて解明し、治療法へ結び付けていくための必要不可欠な過程です。大学院には、最新鋭の研究設備があり、各講座の研究指導教官や同僚・仲間とともに、研究に没頭できる「時間」と「環境」があります。皆さん、実診療で目の前にある問題点解決のための研究を始め、Academic surgeonの道を一緒に歩みましょう！



外科のInstagram

セミナーやイベントのお知らせの他、リアルな外科医の日常の様子や、プライベートなど随時更新しています。ぜひフォローをお願いします。